



学校だより ながや

「みんなで楽しく活動して仲も深まりました」

校長 神田 敏之

先日の参観日にはどの学級も「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の活動を見ていただきました。このプログラムでは、一人ひとりが自己肯定感を高め、自己の存在を確認できること、問題や課題に対して効果ある対処法を選択し、誰かに助けを求めたり、自分で解決していくための「社会的スキル」を身に付けたりすることなどを学ぶプログラムです。横浜市立のすべての学校で取り組んでいるものです。

大人が示した価値観を習うのではなく、活動を通して気付いたことを互いに共有することにより、それぞれが自分で学び、力を付けていきます。その1時間の中の活動で学んだことを日常生活でも意識していくことにより、学びを深めていきます。

冒頭の言葉は、「ナイス・アイデア！」に取り組んだ4年生の言葉です。新聞紙の使い道ができるだけ多く考えるという活動でした。これはブレインストーミングという手法で、会議などで経験されたことのある方もいらっしゃるかもしれません。

「どんな意見でもOKだったので、文章を書くのがにがてなぼくでも2こ意見を出せました」というように安心して活動に参加できたふりかえりがありました。

ブレインストーミング のルール

- 1 批判しない
- 2 どんな意見も OK
- 3 質より量が大事

子どもたちの様子についてホームページを活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。

学校ホームページ

QRコード



5、6年生では、「日本脱出!？」という活動をしました。互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとするのがねらいです。はじめに12個の品物のうちどれを優先して持っていきたいかを個人で考えます。次にグループとして3つの品物に絞ります。その話し合いの過程が学びになります。

「こういう状況になってもゲーム機を優先する人がいることがわかりました。人によって感じ方が違うとわかりました。」

「多数決でなくても、話し合いでしっかりとした順位をつけることができた。」

「みんな似たところもあればぜんぜんちがう考えがあった。そしてそれぞれの意見をまとめるので、個人の意見を大事にした。」

集団で意思決定するときには、いろいろな方法が考えられます。多数決はそのうちの一つです。多数決で決めると、仕方がないと思いつつながら感情では納得できないことが残ることがあります。今回のような話し合いでは、少数意見でも話し合いの中で、参加者が納得をすれば、そちらが採用されることもあります。話し合いの合意形成では、採用されなくても自分の意見を聞いてもらえたという点で納得できる場合もあります。このような気持ちの折り合いの付け方を、日々の生活を通して学んでいけるようにします。

学んだことは、すぐに使えるようになるわけではありません。何回も挑戦してだんだんに使えるようになっていきます。学校教育では長期の視点で子どもの成長を見守っていきます。

【家庭数】

横浜市立永谷小学校

令和6年6月27日



学校だより
ながや

子どもたちの様子について
ホームページを活用してお
知らせします。月1回程度
を予定していますので、
「学校日記」等のページを
ご覧ください。

学校ホームページ

QRコード

